

屋久島異文化交流セミナー&ホームステイプログラム 2012 実施報告書

鹿児島大学留学生センター
大嶋 眞紀
市島 佑起子

本報告は、平成24年8月28日・29日に実施した「屋久島異文化交流セミナー」及び8月29日から9月1日までの「屋久島ホームステイプログラム」の実施状況に関するものである。セミナー実施は、平成24年3月に実施したセミナーのあとを受けて、企画されたものであり、学長裁量経費を認められた。6月には、屋久島環境文化財団を訪問し、準備のための意見交換を行った。7月には学生募集を行い、下旬に抽選会を行った。ホームステイ希望者が募集人数を大きく上回ったため、抽選となった。結果的には、セミナー参加者計28名（うちホームステイ参加者10名）が確定した。8月21日には事前の説明会を実施した。本報告書の執筆は「異文化交流セミナー」の部分と「まとめ」を大嶋、「ホームステイプログラム」の部分由市島が分担している。

1. 異文化交流セミナーについて

1.A 実施状況

異文化交流セミナーは、今回はポスターセッション形式とした。例年、郡元キャンパスで実施しているポスターセッションが盛況であり、県内他地域での開催を望む声なども届いていたため、前回の屋久島異文化交流セミナーとは異なり、少数の学生がプレゼンをする形式をとらず、11名の留学生が、それぞれ制作したポスターに基づき、口頭発表を行い、来訪者が自由に質疑応答をする形式とした。しかしながら、郡元キャンパスでのポスターセッションとは異なり、屋久島では夜間の開催であり、また来訪者が限られていたため、盛会となるかどうか不安を抱えての出発となった。

出発当日は、一名の病欠をのぞき、27名が全員、集合時間にも遅れず、種子島・屋久島フェリー乗り場に向かった。前日の超大型台風の余波で、大勢のキャンセル待ちがある中、12時出発のロケットに全員元気いっぱい乗り込んでしばらくは調子づいていたが、船が出港して30分もしない頃から、青ざめてくる留学生が増え、波の大きさに次第に気分を悪くしていった者が4、5名いた。13時45分ようやく宮之浦港に到着。船酔いした4名はそのまま文化村にとどまることになり、他の23名がバスに乗り、千尋（せんびろ）の滝に向かった。雄大な景色にようやく船旅の疲れを癒し、全員次第に元気を取り戻して

いった。帰りのドライブを堪能し、夕方5時、屋久島環境文化研修センターに到着。館内オリエンテーションを受けた。そして6時から、夕食と異文化交流セミナーを開始した。大嶋と根建屋久島環境文化研修センター所長の挨拶から始まった。

異文化交流セミナーには、安房中学校の生徒、ニュージーランド派遣中学生、高校生数名などが参加し、ポスターセッションを行わない留学生なども各ポスターのプレゼンテーションを聞いてまわった。それぞれが自由にポスターを見学し、発表を聞いて、質疑応答をするという形式が果たして中高校生にも通用するものかどうか気がかりであったが、それは杞憂であった。どこのコーナーも熱心に聴講するものや、会話が弾むものなど、けっこうな賑わいで、真の意味での異文化コミュニケーションがとれたのではないかと思われる。発表者の多くは初級レベルの日本語能力しかなかったため、十分に対応できないのではないかと心配したが、8月上旬に郡元キャンパスで1回ポスターセッションを体験していたためか、全員笑顔を絶やさず、のびのびと発表を行っていた。発表を行わない留学生はどちらかという上級者が多く、退屈してどこかへ消えてしまうのではないかなどと思ったが、その心配もなく、全員が協力的であり、また地元の中学生在発表を行わない留学生とも熱心に会話している様子も見られ、なかなか活発な交流が行われていると思えた。

ポスターセッションの発表者の出身国は、イギリス、マラウイ、オーストラリア、ドイツ2名、フィリピン、インドネシア、バングラデッシュ、ペルー、台湾、韓国（病欠）であった。

8時にはセッションを終了し、上村研修センター主任の司会で、中学生、高校生の感想を聞き、また留学生も感想を述べ、日高研修センター係長の閉会の挨拶、そして8時半ごろには全員がお別れのハイタッチをして終了した。

翌日は朝食ののち、8時半研修センターを出発し、屋久杉ランドに到着。約1時間の散策を楽しんだ。小雨もぱらつく中、研修センターの担当者がグループごとに屋久杉の自然、環境、植生などについて丁寧に解説をしてくれたため、留学生にとっては、日本語聴解という意味でも有意義な体験となった。そして12時に昼食、おみやげを買い、1時から屋久島環境文化村の施設見学、大型スクリーンによる屋久島の映像を堪能し、3時に宮之浦港でホームステイ組と別れ、出航。帰りの船旅は台風も収まり、比較的静かな旅で、研修旅行についてのアンケートなどを回収した。

ホームステイをせずに戻った留学生たちも、全員至極満足した様子で、屋久島の素晴らしい自然を体験できたことを評価する声が高かった。

1.B 1泊2日研修のアンケート結果について（対象18名）

		とてもよい	まあよい	あまり よくない	よくない	無回答
1	募集方法	12名	4名			2名
2	事前説明	17名	1名			
3	1日目島内巡り	12名	6名			
4	1日目異文化交流セミナー	12名	5名	1名		
5	2日目屋久杉ランド	16名	2名			
6	食事	10名	8名			*
7	船やバスの移動	9名	5名	3名	1名	**
8	フリータイム	9名	9名			

* 少ない・味に慣れない

** 船旅ははじめて

その他の自由コメント：（ ）内は回答者数

[思い出] 中学生と話したこと、スタッフの説明、縄文杉が見えなかった、ポスターセッションでいろいろな国を知った(2)、屋久杉ランド、猿と鹿(2)、森と滝(3)、船酔い、水、杉、親切な人々、映画、他国の留学生と友だちになれた、日本人中学生といっしょにすごしたこと(2)、自然との共生(2)、景色、各国の人と交流したこと。

[新たに知ったこと] 屋久島の自然(4)、自然保全の努力(2)、日本人の朝食、岩石の分類や杉の種類を知ったこと、現地の人の案内、たくさんの国から留学生が鹿大に来ていること、他国のこと、九州一高い山、環境保全(3)。

[改善点] もっと長く(3)、ポスターセッションで中国の物がなかった(4) ホームステイの抽選が不公平、1泊2日は短く、4泊5日のホームステイは長い。海にも行きたかった。バスが狭かった、もっと時間を、異文化交流は一人ずつ発表したほうがいい、買い物の時間が長かった、山登りの時間をもっと。

[その他] 高校生と交流したい、一生忘れられない体験、多少自費でも滞在は2泊3日がいい、とてもよい経験、また来たい(2)、環境文化センターの人たちが親切に詳しく答えてくれたこと。

*アンケート結果について

4段階評価の部分については、異文化交流セミナーをあまりよくないと評

価した者が1名いたが、なぜよくないかという点の指摘はなかった。船による移動について、マイナス評価が多少あったのは船酔いがあったため、無理からぬところである。自由コメントでは、中学生や他国の学生と交流できたことを思い出としてあげているものが目立った。新たに知ったことの中にもその点の指摘があった。同じ大学内でもお互いに知らないということがいえる。改善点としては、もっと滞在を長くという声が目立った。ポスターセッションに中国のポスターがなかったという点が、参加者の中に数名いた中国人留学生の不満であったようだ。これはポスターセッションの準備段階で、初級・中級クラスに焦点を絞ったため、上級者の多い中国人がポスターを制作する機会がなかったため、今後の反省点としたい。抽選方法については、男女比、国籍比、など様々な要素が人選にからんでいた事情や、実際に抽選で選ばれたものには中国、韓国以外にもベトナム人などが混在していた事実なども、抽選される側は知らなかったなどという背景も関係している。

全体としては、環境文化財団の担当者の様々なケアを留学生は高く評価していたことがうかがわれる。(文責：大嶋)

2 ホームステイプログラムについて

2.A 実施状況

8月29日午後に異文化交流セミナーのみ参加の留学生達が帰った後、残る10名(29日は9人)によるホームステイプログラムがスタートした。14:30発の船を見送った後、バスで環境文化研修センター(以下、研修センターとする)へ向かい、到着後、ホームステイプログラムのオリエンテーションを受けた。説明に関しては、財団スタッフが中心となり進めて下さった。財団スタッフとも慣れてきた頃であったため、大分緊張がほぐれ、全体的になごやかな雰囲気であった。一方で、天候不良や団体旅行という慣れない環境下での疲れも見えたため、オリエンテーション終了後は各自自由時間とし、夕食、入浴、夜の自由時間を思い思いに過ごし、就寝時間となった(天候不良で星空観察会は中止となったが、代わりに全員でささやかな交流会を行った)。

8月30日は、朝食をとった後、朝9時に研修センターを出発し、バスで15分ほどの所にある田代海岸での清掃活動を行った。使用する道具の配布や、地元ボランティアの方との挨拶を簡単に済ませた後、各自、ゴミ拾いの作業に入った。特に細かな指示を出したわけではないが、各自が分散し、積極的にゴミを拾っていた姿が印象的であった。結果としては、大きなビニール袋5つ程のゴミが集まり、一応、清掃ボランティアとしての役割を果たせたのではないかと

考えている。また、快晴の天候の下、海を眺めたり魚を追いかけたりする様子も見られ、屋久島の環境問題、特にゴミ問題の一端に触れるだけでなく、自然の美しさに触れる機会にもなったように思われる。その後、昼食・休憩のために研修センターへ戻り、13:30頃、屋久島南部にある平内地区の生活館へと移動した。同時間帯に、体調が回復した韓国人留学生が安房港に到着したため、財団スタッフと引率教師が出迎えに行き、その後の対面式に合流することとなった。14時から行われた平内集落代表者との簡単な対面式の後、代表者や、世話役の案内で、平内集落の各所へと出向いた。平内海中温泉、集落内に残る墓や神社などの歴史的遺物、民具館等を案内していただき、留学生は難しいながらも生の日本語を聞き、自分の肌で、集落の様子を感じる事ができたように思う。その後は少し早めに生活館へ戻り、しばし休憩をはさんだ後、ホームステイ受け入れ家族との対面式が行われた。今回は、10名が2名×5組に分かれ、5家庭に受け入れて頂いた。日本語力（上級と初級）や互いに面識があるかななどのバランスを取りながらペアを決め、最終的に男子ペア3組、女子ペア2組に分かれた。対面式の際に、ペアごとに自己紹介をする機会があったが、突然の事であったにもかかわらず、それぞれのキャラクターが活きた自己紹介をしていたように見受けられた。その後、受け入れ側も留学生側もまだ緊張の色が見え隠れする中、各家庭へと移動し、それぞれの夜を過ごすこととなった。余談だが、財団スタッフとカメラマン、引率教師がこの夜、様子見をかねて各家庭へ訪問した際、どの家庭でも、たくさんの料理が並べられたテーブルを囲みながら談笑する様子が見られ、平内集落の方々のホスピタリティーに心打たれた夜となった。

8月31日は朝9時半に生活館へ集合し、10時過ぎから農業体験を行った。平内集落の世話役であるWさんのポンカン畑での、剪定や雑草取りが主な仕事であった。途中、屋久島町広報の方や南日本新聞社の方が取材に訪れた。後のアンケート結果で簡単に述べるが、取材以外にも向けられるカメラの台数が多く、常に写真を撮られるというのは、留学生達にとって多少ストレスだったようである。今後の改善点としたい。その後、生活館でお弁当を食べた後、13時に各ホストファミリーが迎えに来て、それぞれの家庭でのフリータイムとなった。後で聞いた話によると、島内の観光はもちろん、ケーキ作りをする家庭あり、水彩画体験をする家庭ありと、バラエティーに富んだフリータイムだったようである。18時から平内生活館の屋外にて交流会（バーベキューパーティー）が行われた。交流会には、留学生・ホストファミリー・財団スタッフに加え、平内集落の皆さんが準備段階から参加して下さった。特に、財団スタッフの方と平内集落の方々にはバーベキューの準備・会場設営に片づけとお世話になり

っぱなしであった。乾杯の合図の後は、お酒を交えながら冗談あり、笑い声あり、叫び声(?) ありの楽しい時間を過ごした。途中、各家庭でフリータイムにしたことを留学生が日本語でスピーチしたり、平内集落の伝統芸能の披露があったりと、学生達には普段できない貴重な体験になったものと確信している。その後、8時半過ぎに交流会はお開きとなったが、男子学生は全員が一つの家庭にお邪魔して二次会を開いたようだ。それも日付が変わる頃にはそれぞれの家路につき、最後の夜を過ごした。3時間近い交流会であったが、皆がなごりおしそうにしていたのが非常に印象的である。

最終日の9月1日。朝9時に平内生活館へ集合し、閉会式が行われた。財団代表、集落代表のご挨拶を頂き、留学生も2名が感想を述べた(男女各1名)。集落代表のMさんは留学生全員の出身国・名前を覚えて下さっており、来年も後輩たちを歓迎して下さる旨、お話下さった。学生達も非常に感動したようであった。その後、ホストファミリー代表の方の挨拶があり、最後に記念撮影をして式は終了。感極まって涙を流す姿もいくらか見られたが、皆、また屋久島に来るという約束を交わしつつ、笑顔でのお別れとなった。それからは、バスでフェリーターミナルがある宮之浦まで移動。観光センターでお土産を買い、2階で最後の食事をとった後、12時発のフェリーで鹿兒島へ向けて出港。帰りは快晴の穏やかな天候の中、思い出話をしながら約2時間の乗船を楽しみ、無事鹿兒島港へ到着。現地解散となった。

今回、初めて他人の家に泊まる学生が多く、ホームステイが始まる前は少し不安な様子も見られたが、屋久島の方々の心温まるもてなしにすっかり感動したようで、全員がまた屋久島を訪れたいと口々に述べていたのが印象的だった。国際交流とは、国際社会を理解するとはどんな事かと様々に論じられているが、外国人が参加しさえすれば、それは国際的だと信じられているケースも少なくない。今回の屋久島でのプログラムは、参加者皆がそれぞれの立場、思いを持ちながらも、共に考え、学び、思いやり、楽しむことができたという意味で、世界遺産の島・屋久島に見守られた、温かい国際交流の場になったのではないかと考えている。この場を借りて、関係者の皆様に感謝申し上げたい。ありがとうございました。

2.B 4泊5日研修のアンケート結果について(対象10名)

(注1)自由回答についてはできる限り原文に近い形で日本語の間違いを修正しました。

(注2)英語で回答されたものは日本語に訳し、文の後ろに(英)マークを付けました。

【セミナーに関して】

		とてもよい	まあよい	あまり よくない	よくない	無回答
1	募集方法	6名	3名			1名
2	事前説明	6名	4名			
3	1日目島内巡り	3名	5名	1名		1名
4	1日目異文化交流セミナー	6名	4名			
5	2日目屋久杉ランド	5名	5名			
6	食事	4名	6名			
7	船やバスの移動	5名	3名	2名		
8	フリータイム	6名	4名			

設問1～8の自由コメント

- ・屋久杉ランドの散歩はぼくにとって短すぎました。
- ・食事は少ししょっぱかった。もう少し野菜をいれてほしい。
- ・今回はとても良い経験だった。できることなら屋久島に戻って来たい(英)
- ・屋久島の食事は本当に素晴らしい！(英)
- ・病気ではじめの2日は参加しなかったです。

*アンケート結果について(セミナー)

セミナーに関する内容は「とてもよい」「まあよい」が大半を占め、おおむね満足できたと捉えることができそうだ。もちろん具体的な意見については次回の反省点として改善していきたい。ちなみに、船やバスの移動についてあまりよくないと回答した2人は、行きの船で体調を大きく崩したことが影響していると思われる。学生達は、事前の情報として屋久島の自然が世界遺産であるという事を知っているため、その自然に触れ合えるというイメージを持って参加しているようだった。そのせいか、もっと山や海、川などの自然に触れ合いたかったという意見が口頭であったことも書き添えておく。

【ホームステイに関して】

		とてもよい (とてもできた)	まあよい (まあできた)	あまり よくない (あまりできない)	よくない (できない)	無回答
9	日本語コミュニケーション	6名	4名			
10	ホームステイ活動楽しんだ	10名				
11	ホームステイ食事	10名				

13	ホームステイ環境	10名				
14	家族と親しくなれたか	10名				

[12] ホームステイでの食事はどんなものをごちそうになりましたか？

意見も書いてください。(意見部分のみ掲載)

- ・(魚、みそ汁、フルーツなど)全てよかった。
- ・(和食)おいしかったです。
- ・晩御飯は色々な屋久島の物を混ぜて作られた料理でした。
- ・美味しく、健康的だったと思います。
- ・(日本の食事、日本の朝ごはん)どちらも本当によかった。(英)
- ・出された食事は完璧だった！日本と西洋の食べ物、よいバランスだった(英)

[15] ホームステイで一番思い出に残ったことは何ですか？

- ・3人一緒にお箸を作り、ペットと散歩し、温泉に行ったことです。
家族のようです。
- ・家族と一緒に話し、食べ、一緒にケーキを作り、犬と遊んだこと。(英)
- ・ケーキを作ることといろいろな所へ行くこと。
- ・バーベキューごはん。
- ・おいしい料理を食べながら、海を見ること。
- ・Mさんが話してくれた色々なこと。
- ・家族との滝見物・温泉、家でのビール、日本語でのプレゼン(ポスター)、農業体験、バーベキュー。(英)
- ・訪れた場所(滝・温泉・灯台・道にいた動物たち)、
特に、真夜中の温泉はとてもよかった。素晴らしい食べ物。
Mさんのホスピタリティー。滞在したお家は本当に素晴らしかった。(英)
- ・全部！Mさんの家は素晴らしかったです。
- ・バーベキューでのペトロス(注：参加学生の名前)。(英)

[16] ホームステイ中に困ったことはありませんでしたか？

⇒困ったことはなかった(8名) 困ったことがあった(2名)

- ・自分は英語が苦手だから、パートナーと時々うまくいかなかった。
- ・写真撮りすぎ。

[17] ホームステイ全体について意見や感想を書いてください。

- ・全てよかった。(英)
- ・日本の文化を学ぶよい方法だった。家族と話す事で日本文化を理解する

という事柄が達成できた。このプログラムが続けられることを強く勧める。期間を一週間くらいに延ばしてほしい。(英)

- ・とてもよいプログラムだ。日本についての新しい視点を得る事ができた。日本に来る前に描いていた大都会とは全く異なる新しい視点だった。そして、集落の人々全員のホスピタリティーは本当に信じられない物だった。真夜中に海の近くの温泉に行くなんて想像もできなかった。素晴らしい体験だった。(英)
- ・あまり期待しなかったが、意外に楽しかった。でも、ホームステイの家族と一緒にいる時間はもうちょっと長ければいいなと思います。
- ・すごくよかった。山も海も動物も人もすごくよかった。すごく楽しい思い出だった。あたらしい友達がいっぱいできた。すごくすごくすごく満足しました。
- ・皆さん優しかったです。
- ・日本語の能力が低かったので少し説明に困ったことがあったが、(屋久島の)彼らはとてもよかった！(英)
- ・2日は少ないかも。
- ・皆、熱心にやりました。多くのおもしろい人に出会ってよかった。

[18] 今回の研修旅行で一番思い出に残った事は何ですか？

- ・海中温泉(英)
- ・Mさんのホスピタリティーと真夜中の温泉(英)
- ・家族と過ごしたことが最良の思い出。自分の家族を思い出させてくれた。自分が一緒に過ごした家族はベストだった(英)
- ・今回の旅行がきっかけで、みなさんと仲良くなったこと。
- ・先生がすごくやさしかった。
- ・B. B. Q
- ・みんなと酔っぱらった事(英)
- ・皆のきれいな笑顔です。

[19] 今回の研修旅行で、新たに知ったこと、感じた事は何ですか？

- ・本当に快適だった。自然について考え、感謝する機会になった(英)
- ・フィールドトリップ、スタディーツアーでたくさん事、特に日本文化について学んだ。このツアーが進められ、より多くの留学生が参加できるともっと良いと思う(英)
- ・山登りと自然を見るために、屋久島に帰って来たいと強く思っている(英)

- ・海中温泉
- ・いろいろな国のことを知った。
- ・初めて知らない人の家に泊まります。元々は不安でしたが、皆さん優しかったです。
- ・海中温泉、箸づくり、人間の温かさ。

[20]研修旅行への要望や改善点があったら書いてください。

- ・滞在日数、参加者を増やしてほしい(英)
- ・少なくとも4～5日ほしい(英)
- ・山登り(英)
- ・三泊のほうがもっと楽しいと思う。
- ・ホームステイがもう一日あったらもっとよかったと思う。
- ・屋久島の自然観光や山登り、海遊びなどがもっとあったらいい(英)
- ・バーベキューの時間をもう少しのばしてほしい。
- ・もっと本当の自然とふれあいたかったです。山登りなどしたいです。
31日の農業の代わりに一日ホストファミリーとのフリータイムがあればいいと思います。それなら登山でもできると思います。

[21]何か付け加えたいことがあったら自由に書いてください。

- ・ありがとうございます！
- ・縄文杉が見たかった。
- ・ありません(英)
- ・できれば人数を増やし、もう一日遠い所に行きたい。
- ・屋久島旅行は素晴らしかった。
Mさんファミリーはとてもフレンドリーだった。

***アンケート結果について(ホームステイ)**

ホームステイに関して、肯定的な意見が驚くほど多く見られた。初めての事業ということで、誰もが手さぐりの状態だったと思うが、感謝の気持ちが多くつづられたこの回答が、何より学生達の満足した気持ちを表しているように思う。受け入れ側には様々なご苦勞があったと想像しているが、留学生側もホストファミリーの愛情を感じ取り、日本家庭での生活を体験すると同時に、久しぶりの「家族」を満喫できたのではないだろうか。今後に向けて、参加人数や滞在日数など色々な意見があがり、留学生と屋久島の方々の双方にとってベストな内容を、そして、ただの観光旅行ではなく、環境との関わり方や日本文化

についてきちんと学べる充実したプログラムとなるよう、話し合いを重ねる事が重要ではないかと感じた。いずれにしても、国際交流、地域活性、環境学習等々、多くの可能性を秘めたプログラムであることを確信した次第である。

(文責：市島)

2.C ホームステイ受け入れ家庭のアンケート結果について (対象: 5家庭)

ホームステイの受け入れをしてくださった5家庭の方々を対象に、アンケート調査を行った。学生達が在宅中、巡回をした際に引率教員が依頼し、後日、財団スタッフが回収を行った。いずれも記名式でお願いし、最後のページには、十分コミュニケーションができなかった場合を想定し、学生達へのメッセージを頂戴した。(このメッセージの部分のみ、学生本人が観覧できるようにした。)以下、特に全体の運営に関わる項目・意見を中心に集計結果を載せる。

※()内は実数

[3]今回、留学生を受け入れられたきっかけは何ですか? (複数可)

知合いに頼まれたから(3)、ホームステイに興味があったから(1)

留学生に興味があったから(1)、

その他(1)↓

- ・里のエコツアー(注：環境文化財団プログラム)の関連で宿泊可能な家庭という事で登録してあるため、今回は留学生を受け入れた。
- ・昨年も中学生の民泊をやらせて頂いて、楽しかった。せっかく屋久島に住んでいるのだから、多くの人に屋久島の良さを知って欲しいから。

[4]留学生を受け入れるために、どのような事前準備をされましたか? (複数可)

屋久島・日本らしい食べ物の準備(4)、外国人の口に合わせた食べ物の準備(3)

案内する観光地などの選定(2)、宿泊用の部屋などの確保(1)

英語など外国語の準備(1)、手土産や記念品の準備(1)

その他(3)↓

- ・特に身構えることなく、いつもの生活の延長線として受け入れさせてもらいました。
- ・前年度の体験にて、地元・特産品を自宅へ来るまでに何回か食べられたかどうか?担当者に聞きました。屋久島へ来られてからのメニューの内容をコピーで持ってきてくれて助かりました。魚料理ばかりだったので、我が家では当日ハンバーグを作りました。

- ・留学生の活動への準備（二日目午後の）

[5]留学生受け入れに際して、関係機関からの説明は十分でしたか？

とてもよかった	まあよかった	あまりよくない	よくない
3	2	-	-

※事前説明について、改善点やご意見がありましたらお書きください。

- ・とても丁寧な事前対応で助かりました。個人情報の問題もあるかもしれませんが、出来たらもう少し詳しいプロフィールが事前であればもっと良かったと思います。趣味など知っておけば、役に立つかもしれません。
- ・初めて留学生の受け入れをする人には、「それ程構えなくていい」「普段の姿を見せれば結構」とかをくれぐれも伝えてほしい。どうしても初めての場（私の場合も）いろいろ準備を考えてしまいがちで、受け入れの日までかなり疲れてしまいました。（特に、私の場合一人暮らしだったので）
- ・前もって電話なりして相談してほしい。

[6]※留学生と日本語でコミュニケーションする際に、苦勞された事や
伝わらなかった事がありましたら、お書きください。

- ・日本語と片言の英語で十分に通じました。
- ・海外からの留学生の場合、日本語の上達の為には日本語で話した方が良かったと思いました。
- ・ことばの点で行きちがいもあったと思う。

[7]※今後、指導や気づきが必要だと思う留学生の行動や発言がありましたら
お書きください。

- ・全く問題ありませんでした。気遣いもよく、私共が見習う事の方が多かったです。

[8]ホームステイ中に困ったことやトラブルはありませんでしたか？

特に問題はなかった	困ったことやトラブルがあった
4	1(↓)

- ・夕食の準備中に、家内が体調を崩して、急きょ男の私を作る事になり慌てました。しかし、2人の留学生がとっても協力的で助かりました。美味しい家内の夕食が出せず残念でした。

[9]留学生を受け入れて感じたカルチャーショックや気づきがあればお書きください

- ・ 2人共、たった4か月の日本生活なのに、日本語がとっても上手なことにショックを受けました。何年も英語を勉強してきた私の能力不足を痛感しました。
- ・ あまりに日本語が堪能だった為、ついつい冗談やことわざが出てしまいました。これには、さすがに頭が???でした。
- ・ 留学生が用意してくれたプレゼンテーションで、その国のようすが良くわかりました。
- ・ 留学生との話の中で、台湾もオーストラリアも小学生の頃から学校に時計を持っていつているという事にびっくりしましたが、彼女たちも日本は高校生からと話す、信じられないといった表情をして驚いていました。二人とも正座は苦手らしく、食事中はあぐらをかいていました。

[10]今回のホームステイに関して、ご意見やご感想を自由にお書きください。

- ・ 女の子二人でしたが、二人とも素直で明るい子で本当に楽しいひとときでした。特にHは、私たち夫婦をお父さん、お母さんと読んでいいですかと言ってきて嬉しかったです。Iは、食器洗いを進んでしてくれました、1日目、夕食後にお互いの国の紹介をしてくれました。自分の国の事をよく調べて勉強していることに感心し、何よりも愛国心を感じました。屋久島へ来るときの高速船で船酔いをした二人は、大川の滝に行けなかったという事だったので、ぜひ連れていきたいと主人がフリータイムの時に出かけました。案の定、二人とも初めて大きな滝を見た感激していました。始めは、言葉は大丈夫かなと少々心配でしたが、困ることなくこちらが英語を教えてもらう等して過ごすことができました。
- ・ それぞれの受け入れ家庭の事情もあると思いますが、留学生とのコミュニケーションの場をもうすこしとってほしい（フリータイムの時間）。留学生がよろこぶ事などをした方がいいと思う。
例) カヌーとか自然に触れさせる。
- ・ 受け入れまでが忙しかったが、とっても楽しい時を過ごすことができました。別れたあとの二・三日はとても寂しさを感じました。
- ・ 夜のパーティーで何か留学生のエンターテイメントがあったら、もっと良かった。(国の違いや準備の時間などで全員では難しいでしょうが、事前に何かできる人がいたら用意してもらえたら、さらにいいパーティーになったと思います。)

- ・全員の資料が欲しかった。(名前も耳からだけでは覚えられませんでした) 又、留学生の趣味、屋久島で何をしたいのかもその資料に載せてもらえるとうりがないと思います。
- ・正直、中国・韓国、今正に話題まっただ中の国の人で、若い世代、どう対応していけばと不安ありましたが、少しほっとしました、女性二人、日本語が非常に堪能なので、お互いに話の内容が理解できました。
- ・現在の日本人女性の22歳と23歳なら到底私達ついていけないと思ったけど、今回の女性二人は、私達の青春時代の考え方とよく似ているので、非常に接しやすかったです。彼女たちは合わせてくれたのかもしれない。
- ・我が家の食卓、女性二人で今回初めて知合い、話をする機会が日本語で無かったとの事。一日目は4人で食事、2日目、3日目の朝二人だけにしてあげました。当日の朝も、気持ちよかったです。ウッドデッキにて！これで良かったのか？です。男性ならばいっしょにモーニングしたかも！
- ・貴重な体験をさせて頂きました。国と国では問題があっても、人と人は心が通じ合うものだという事を実感できました。もう少しフリータイムがあったらもっと良かったと思います。例えば、初日が夕方からではなく、朝からホームステイ宅に入るとかすれば、良いかもしれませんね。

[11]ホームステイ行事が再度行われた場合、また参加したいと思いますか？

ぜひ参加したい	参加してもいい	あまり参加したくない	参加したくない
3	2	-	-

*アンケート結果について(受け入れ家庭)

受け入れ家庭の方々も、外国人留学生を宿泊させるのは初めてというケースが多く、試行錯誤して下さった様子が伺える。外国人ということで、日本語や英語などの言葉の問題についての心配が最も多いのではないかと予想していたが、そのような回答はあまり多く見られなかった。それ以上に、受け入れる前準備として、留学生のプロフィールや要望等の情報を求める声が散見された。お互いにどんな人のお世話になり、どんな人に受け入れられるのかという情報を、心構えの意味で知っておくことも大切なのではないかと感じた。今回は、お世話役の方々のお蔭でスムーズに受け入れをして頂けたが、継続・発展ということを考えれば、平内地区の他のの方々にも関心を持って頂く事が不可欠であるはずだ。セミナーで行ったポスターセッションが好評だった事から、あのような場に、ホストファミリーを始めとした一般の方が参加できるようにしてもよいのではないだろうか。(事前に留学生の雰囲気を知る事ができる)全体を通

して、不満や要望よりも、このようにしたらもっといいのでは？という提案が多く見られる事から、改善点や今後の方向性などを考える良いヒントがたくさんつまった回答を頂いたと感じている。個人情報等に気を付けながら、今後、より良い方法で進められるよう、また、受け入れ家庭の皆さんにも意義のあるプログラムになる様、この結果を活かしていきたいと思う。暖かいもてなしをしてくださったホストファミリーの皆様、調整役として難しい役割を引き受けて下さった財団スタッフの皆様に、この場をお借りして御礼申し上げたい。

(文責：市島)

3 まとめ

2回目となる「屋久島異文化交流セミナー」、そしてはじめての「屋久島ホームステイプログラム」、いずれも充実した事業であったといえよう。期間、内容はそれぞれ異なるが、いずれの事業も、留学生と屋久島の住民がどのようにして相互理解を深められるかという実験的試みであった。言語の壁、国籍の壁、世代の壁を双方がどのようにして克服していったか、そのプロセスが極めて重要なものとなる。それらはほんのささやかな視線や態度、表情などでも捉えられるものであり、本報告書とは別に、DVDの編纂も試みたのはそのためである。本事業を今後どのように発展させ、充実していくかは、今回収積したデータ、アンケート回答資料等を合わせて、分析考察の対象とする予定である。

本事業の実施にあたり、御協力、御支援いただいた屋久島環境文化財団の皆様、鹿児島大学学長及び事務局、ホームステイファミリーや安房中学校等の関係者の方々、平内集落の皆様、全てにこの場を借りて心より御礼申し上げます次第です。(文責：大嶋)

大嶋 眞紀 (留学生センター長・教授)

市島 佑起子 (留学生センター講師)